

2010 年度

東邦大学医学部看護学科・河南科技大学臨床医学院

国際学術交流プログラム

来日研修報告書

2010 年度
東邦大学医学部看護学科・河南科技大学臨床医学院
国際学術交流プログラム
来日研修報告書

目次

1. 来日研修プログラム
 - 1) 研修生
 - 2) 研修プログラム日程
 - 3) 交流風景

3. 研修生のレポート

国際交流委員名、作成月日など

1. 来日研修プログラム

1) 研修生

史素玲 (shi suling) (看護部副部長)



秦二英 (qin erying) (手術室婦長)



2) 研修スケジュール

月日		時間	内容
10月3日	日		成田到着
10月4日	月	9:00-12:00	オリエンテーション・学科紹介*1
		12:00-13:30	歓迎会
		14:00-16:00	河南科技大学医学院の紹介
10月5日	火	10:00-16:00	感染制御学
10月6日	水	9:00-12:00	e-learning 紹介
		13:30-16:00	大森病院見学
10月7日	木	9:00-15:00	大森病院見学
10月8日	金	9:00-12:00	看護管理学
		14:00-15:00	感染制御学
10月9日	土	9:00-14:00	はとバスツアー
10月10日・10月11日	日・月		自由行動
10月12日	火	9:00-12:00	体位変換演習
		13:00-15:00	介護保険講義
10月13日	水	9:00-12:00	デイサービス見学
		13:00-16:00	自由行動
10月14日	木	9:00-16:00	大橋病院見学
10月15日	金	10:00-11:00	研修振り返り
		11:00-11:30	修了証授与
		12:00-13:30	送別会
		13:30	自由行動
10月16日	土		帰国

3) 交流風景



研修の学びの発表



体位変換の演習



英語でのプレゼンテーション



修了証書授与

ナイチンゲール像の前で



3. 研修生のレポート

東邦大学研修の感想文

河南科術大学第一附属病院 史素玲

2010年11月28日

2010年10月3日から16日まで、私は手術室の師長、秦さんと一緒に東邦大学医学部看護学科において、看護研修を受けさせていただきました。東邦大学の先生方が、e-learning、感染制御学、看護管理学、医療の質の評価、体位交換、介護保険制度などについて、興味深く、また分かりやすく講義をしてくださいました。また、東邦大付属大森医療センター、大橋医療センター、デイサービスの施設なども見学させていただきました。東邦大学附属病院の素晴らしい設備と合理的なマネジメント、そして、医療従事者たちの高い専門性とチームワークの良さに感銘を受けました。

次に、今回の研修を通して感じたことをご報告させていただきます。

1 細かなことまで配慮していただき、手厚くもてなしていただきました。研修内容はもとより、毎日の昼食のご馳走まで、いたれりつくせりの心のこもったお世話に感動いたしました。空港の出口での細谷先生の優しい笑顔、ホテルでの近藤先生の熱心なご説明、市内観光に連れて行ってくださった森先生の細やかな配慮、入口に中国の飾りを掛けてくださった高木先生の暖かさ、出国する際に荷物を預けるのを丁寧に手伝ってくださった佐山先生、などなど、感動の連続でした。

2. 素晴らしい研修スケジュールでした。高木学科長、岡田国際交流委員長をはじめとする皆様が私たちのために、素晴らしいプログラムを組んでくださいました。合理的に計画されたスケジュール、完璧に準備された資料、そして、日常生活においても、パソコン、電話、お茶のセットまで用意してくださいました。全てにおいて先生方の心のこもった優しさを感じました。

3. 様々な内容が盛り込まれたプログラムでした。小林先生の感染制御学、中原先生のe-learning、細谷先生の体位交換の演習、大森医療センター看護部副部長のフィッシュ哲学などの講義、どれもとても有意義な学びでした。e-learningの映像の中には、先生が患者役を演じているものがありました。このようにして学生に勉学意欲をもたせる、という方法は、とても新鮮で印象深いものでした。看護教育に対する教育者として熱い意気込みを感じました。私たちも今後の教育に、これらをヒントにして、学生が楽しく学べる授業の方法を探究していきたいと思います。

4. 生涯にわたって学び続ける大切を知りました。五島元短期大学学長、木村先生、斎藤先生との交流を通して、自分の専門を愛し、そのために生涯に渡って精一杯頑張る、という姿勢に心を打たれました。私たちも、これからはもっと頑張らなくてはいけないと思いました。

5. 礼儀と節約の精神も学びました。日本では、公衆の場で大声で喋っている人がいませんでした。またどこの店に入っても、店員さんが丁寧に接してくれました。他を尊重する、という態度に感動しました。食事の取り方も印象に残りました。中国のように丸テーブルを囲んで、全員同じお皿からとる、というのではなく、一人一人に分けて盛りつけてあり、量を控え、種類が豊富でした。栄養的にもバランスがよく、また多すぎて残す、というような無駄がなく、合理的だと思いました。

東邦大学での 2 週間の研修は、本当によい勉強になりました。これからは、東邦大学で学んだことをよく咀嚼し、今後の仕事、また私生活にも応用していこうと思います。研修を通して、視野が広がったと同時に、これからもっと頑張らなくてはならないという責任も感じました。

漢詩の「友あり、遠方より来たる、亦楽しからずや」という名句があるように、東邦大学とこのような友好的な交流を末永く続けていきたいと望んでいます。日本からこれからも多くのことを学び、中国の看護の発展のために微力ではありますが、尽くしていきたいと思います。高木先生をはじめとする諸先生方に心より感謝を申し上げます。ほんとうに有難うございました。

東邦大学研修の感想文

河南科術大学第一附属病院手術室 秦二英

2010年11月25日

二週間の研修はあっという間にすぎました。短い時間でしたが、たくさんの新しい知識と理念を学ぶことができた、とても有意義な研修でした。また、高木先生をはじめとする多くの先生方の優しさ溢れる歓迎に感動いたしました。私たち二人だけのために、先生方が丁寧に準備してくださり、とても分かりやすい講義をしてくださり、その教育者としての真摯な姿勢がたいへん印象的でした。日本で体験したことについての様々な感想を以下に報告させていただきます。

1. 東邦大学が私たち二人のために、周到な準備をして迎えてくださいました。専用の電話、更衣室、休憩室を用意してくださいました。また、保険、交通費、食事代など、生活全般について、細やかに面倒をみてくださり、先生方の優しさを感じました。
2. 小林先生の熱心な講義に感動いたしました。難しい内容を分かりやすく教えてください、手洗いの重要性と皮膚消毒剤の正しい使用方法を新たに認識することができました。
3. 中原先生の e-learning の講義から大きな啓発を受けました。手術室専門の技術操作手順や、設備の操作手順を写真とビデオに撮り、今後の教育に生かしていこうと思います。
4. 大森医療センター看護部副部長の伊東先生のフィッシュ哲学の話に心を動かされました。帰国してからの私の課題は、いかにして、手術室の中を、お互いに尊重し合い、前向きな、健康的で楽しい仕事ができる環境にしていくか工夫していくことだと思います。これからは、そのような環境作りに努力していきたいと思います。
5. 大森医療センターの透析センター、救急センター、手術室、また、大橋医療センターの一部の病棟を見学させていただきました。手術室の感染予防、オペ中患者の褥瘡予防、オペ室の新人教育は、私の関心課題でした。見学を通して、これらの課題について答えを得られ、とても嬉しく思っています。清潔な環境、合理的な作業手順、しっかりとした消毒が感染予防に大変重要であること、褥瘡予防には、合理的な体位、適切な機能を有したマットなどの補助器具が有効であることを再認識しました。また新人教育においては、新人が自分のやり方を文書にしてプリセプターに見せる、という教育方法が役立つことを学びました。特に師長さんが新人教育計画に関する資料をたくさんくださったことに感謝しております。
6. 竹内先生と鈴木先生の看護マネジメントの講義も素晴らしかったです。個人の能力に合わせて、合理的に業務を手配する、というのを聞き、感心しました。今後の仕事に役立てたいと思います。

7. 体位交換の演習では、細谷先生が一つ一つの動作を熱心に教えてくださり、体位交換の理念が頭の中に新たに入ってきました。これは、学生への教育、そして実際の仕事でも大変大切なことだと思います。また、細谷先生に連れて行っていただいたデイケアセンターでは、職員一人一人が楽しく、そして創造的に仕事をされていて、高齢者を自分の身内のように世話をされているのが印象的でした。
8. 最後に東京の様子についてです。街を歩くと、吸い殻を捨てるために電柱に小さな空の缶が下げてありました。また、ゴミ回収車も仕事がしやすいようにデザインされていました。さらに、バスも車椅子の方が乗りやすいように工夫されているなど、素晴らしいことがたくさんありました。

次に、帰国してからやり始めたことをご報告いたします。帰国後さっそく特殊医療器械などの使用方法がわかるように、写真を掲載した説明のための小冊子の作成にとりかかりました。一部はすでに出来上がり、好評です。さらに、一部の職員を対象に、仕事中和手洗い後の2回、手に付着した細菌の培養をやりました。この比較により、皆、手洗いの重要性について、改めて認識を深めました。その他にも研修を通して学んだことをヒントに、やってみたいことがたくさんあり、現在計画中です。

最後になりましたが、高木先生をはじめ、諸先生方に心より感謝申し上げます。有難うございました。

国際交流委員会

委員長 岡田 敦子
副委員長 近藤 麻理
委員 中原 るり子
森 秀美
細谷 幸子
徳永 恭子

発行日 平成23年3月4日

発行 東邦大学医学部看護学科 国際交流委員会

〒143-0015 東京都大田区大森西4-16-20

TEL 03 (3762) 9881